

リンゴ生産の省農薬化のための虫害果の非破壊選果技術の開発

交信攪乱法を基軸としたリンゴ栽培の省農薬化の試み

環境問題・食の安全・安心指向への対策

効果・利点

- ・ 殺虫剤散布の削減
- ・ 天敵活性化による二次害虫の防除
- ・ 安全・安心の果実としてアピール可能

問題点

- ・ 交信攪乱剤の効果が安定しない虫害果が発生
モモシクイガの場合・・・
0.1%の被害果でも出荷すると
産地のイメージダウン！

健全果と
外観で区別できない
被害果がある

矛盾

現状の対策

殺虫剤散布による補完防除

生産コスト増
安全性の
イメージダウン

新たな発想

許容できない虫害果を非破壊選果機で識別し、商品から除外

少しぐらいの虫害果はOK



省農薬化が推進

